

# 高等学校 第2学年 家庭総合



**公的機関の統計データや情報の信憑性などについて学んだ上で、消費者問題の具体的な事例や対策について、生成AIも活用しながら、主体的に調べたりまとめたり、生徒同士で議論を深める。**

# 高等学校第2学年 家庭総合 「自立した賢い消費者生活をおくるには」

## ■単元の目標

家族のライフステージに応じた家計の構造、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性などを理解し、生涯を見通した経済管理やリスク対策について考え、論理的に課題を解決する力を養う。さらに、地域社会と協働しながら、消費者問題（消費者トラブル）の解決に主体的に取り組み、家庭や地域の生活向上を目指して実践しようとする。

## ■単元の概要

自立した消費生活の実践に向けて、家計の仕組みなどを理解し、経済管理やリスク対応の力を養い、消費者問題（消費者トラブル）を考察し、責任ある消費行動を実践する力を身につける。

## ■単元の指導計画（9時間）

### 第1小単元 「家計と社会の関わり」

- ・収入と支出を理解し、将来の経済計画について考える。
- ・ライフステージに応じた経済の管理や計画について考える。

### 第2小単元 「消費者信用の仕組み」

- ・キャッシュレス決済・クレジットカードの仕組み・多重債務や自己破産について理解する。
- ・メリット・デメリットについてまとめたことをもとに、自立した消費行動について考える。

### 第3小単元 「消費者問題（消費者トラブル）の現状と課題」

- ・生活情報の収集・整理を適切に行い、消費者問題の実態や契約の重要性について理解する。
- ・自立した消費者としてリスクへの対応力が必要であることを踏まえ、身の回りの消費者問題について考える。

### 第4小単元 「消費者問題（消費者トラブル）にあったら」

- ・具体的な対策方法を理解し、改めて消費者の権利と責任について考える。

## ■小単元の概要

家計の構造について、収入と支出のバランスの重要性について理解し、リスク管理の考え方を取り入れながら生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について考察し、ライフステージに応じた経済計画を立てられるようにする。

消費者信用について、中学校での学びを踏まえ、自立した消費者になるためにはどうしたらよいか、考察する。

消費者トラブルの実態について、統計データに基づき概観した後、具体事例について生成AIも活用しながら調べ、その内容をまとめたポスターを作成し、発表する。  
生徒同士の意見交換を通じて、さらに理解を深める。

発表したことをさらにまとめ、消費者トラブルを防ぐ具体的な対策について共有し、消費者の権利と責任について改めて考える。

## ■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿

### 【学習活動の場面】

- ・近年問題になっている消費者問題（消費者トラブル）について、「定期購入」や「ゲーム課金」などのいくつかのキーワードを挙げ、どのような具体的事例があるのか、また気をつけるポイントや予防法などを調べまとめる。
- ・それぞれが調べた情報について、生成AIも活用しつつ、若者を対象とした消費者トラブルの予防を目的としたポスターを作りクラス内で発表する。

### 【子供の「深い学び」の姿】

**Aは、公的機関のデータや生成AIのチャット機能等を活用し、消費者トラブルの具体事例を調べ、予防啓発のポスターを制作した。**

- ・「未成年が巻き込まれやすい美容用品の定期購入に関する消費者トラブルについて、具体的な事例を教えてください」
- ・さらに、「若者がそのような消費者トラブルにあわないために必要なことは何ですか」、「これらを若者に啓発するためのわかりやすいキーワードを箇条書きで示してください」

Aは、具体事例やその予防・対策について理解を深め、複数のキーワードの中から何を一番伝えたいか、なぜそれを一番に伝えたいと考えたのかを整理し、特に注目した「初回無料のワナに注意」「SNS広告について、困ったら188（消費者ホットライン）へ」というキーワードを用いたポスターの案を作成した。

**作成したポスターをもとに、意見交換を重ねさらに理解を深めた。**

作成したポスターは修正を加えながら、自分なりに工夫して内容をまとめた。ポスターは、グループ内で共有し意見交換し、なぜこの事例やキーワードを選んだのか、またトラブルにあわないためにどうしたらよいか等について発表した。他の生徒が調べた結果や意見も参考とし、責任ある消費行動を実践するために必要な力について議論を通して、理解を深めた。

### 【当該指導での「深い学び」】

Aは、公的機関の統計データや生成AIなどの様々なツールを複合的に活用しながら、身近な消費者トラブルに関する事例を収集・整理した。さらに、興味関心に基づく具体的な事例について、主体的に調べまとめる活動を通して自分事として捉えながら、自立した消費者としてどうするべきかについて、考える学習を進めていった。また、各自が掘り下げて調べたことを共有し、生徒同士で活発な議論を行う中で、新たな考えに出会い、対話的な学習を行い、全体として学びを深めることができた。

## ■指導上の工夫とICTの利活用

### ① 公的機関の統計データに基づき、国レベルの全体像を概観

\* 国民生活センターや県の消費生活センターの統計データを用いながら、身近な具体事例にせまる前提として、消費者トラブルの実態を概観する。

### ② 情報を正確性を確認することの重要性を確認

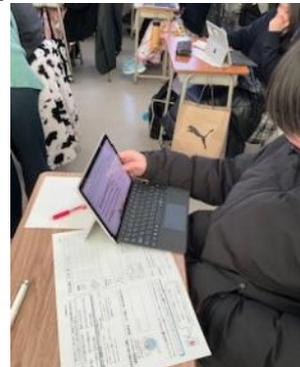
\* 生成AIが必ずしも正確とは限らない事例として、学校についての誤った情報を示す例を紹介した。その上で、生成AIガイドラインに基づき、適切な活用について認識を共有した。

### ③ サービス利用時の利用規約の確認

\* アプリやサービスなどを利用する際に利用規約を確認することの重要性について高校生にとって身近な例を挙げながら示した。

### ④ ポスターの共有や意見交換を行うことでさらに考えが深まるよう取り組んだ。

【活用したソフトや機能】  
マイクロソフトCopilot



# 学習指導要領や解説との関連

## 高等学校学習指導要領 第2章 各学科に共通する各教科 第9節 家庭 第2款 各科目

### 第2 家庭総合

#### 2 内容

#### C 持続可能な消費生活・環境（2）

次の(1)から(3)までの項目について、持続可能な社会を構築するために実践的・体験的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

#### (2)消費行動と意思決定

ア 次のような知識及び技能を身につけること。

(ア) 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めるとともに、生活情報の収集・整理が適切にできること。

(イ) 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解するとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めること。

イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫すること。